

第6章 各学校の特色（ケース・スタディー）

本章では、前章までの具体例として、2004年9月に筆者がフィールドワークによって得た各教育段階の学校に関する情報を各校の特色及び取組み等を交えながら紹介する。

第1節 初等教育（Primary School）

1 ダマイプライマリースクール（Damai Primary School）

（1）学校概要

ダマイプライマリースクールは、国立学校で授業は午前だけの1部制である。体験学習、海外研修などの課外活動が盛んな学校である（図表 6-1-1「ダマイプライマリースクールの概要」参照）。

図表 6-1-1 ダマイプライマリースクールの概要

学校名	ダマイプライマリースクール（Damai Primary School）
住所	52 Bedok Reservoir Crescent Singapore 479226
学校経営のタイプ	国立校
創設年月日	1985年9月26日
教師数	41名（男性5名、女性36名） 事務員5名 その他6名
生徒数	949名（男子509名、女子440名）
学校時間	7時30分から13時30分 1部制

出所：2004年9月学校訪問聞き取り調査により作成

（2）特色

①ビジョン

ダマイプライマリースクールでは、同校のビジョンとして、信念をもって行動する、豊かな能力を持つ、創造力に富む、優れた人格を持つ児童の育成を掲げている。

②読書習慣

毎日、授業開始前に20分の読書の時間を設けている。毎朝、読書する時間を設けることで、子どもたちが読書する習慣を自然に身に付けていくことをねらいとしている。

③海外研修

ダマイプライマリースクールでは、シンガポール国内での活動に加え、希望する生徒に少なくとも年に1回、国外で活動する機会を提供している。この機会を通じて子どもたちは、外国の生活や文化を身近に体験することができる。

2004年3月には、オーストラリアのパースで海外研修を実施した。パースでは、子どもたちは農場で生活し、自然や環境問題について学んだ。この海外研修の費用については、約40%を学校が負担し、残りの費用を保護者が負担している。

③保護者の協力

学校運営には、保護者の協力が欠かせない。ダマイプライマリースクールでは、図書館運営、読み聞かせ、各種イベントに保護者がボランティアとして協力している。保護者が授業のアシスタントをすることもある。児童の入学3ヶ月後に学校と保護者が話し合う機会を設け、その際にボランティアとして協力してくれる人を募集している。

④学校カウンセラー

ダマイプライマリースクールでは、専門のカウンセラーが週3日、1日4～5時間カウンセリング室に待機している。週に20人前後の利用者があり、生徒は休憩時間等を利用して、カウンセリング室を訪問する。



休憩時間に遊具の貸し出しの当番をしている子ども（Damai Primary School）

2 ノースランドプライマリースクール（Northland Primary School）

（1）学校概要

ノースランドプライマリースクールは、国立学校で授業は午前と午後の2部制である。1年生は午前の授業、2年生は午後の授業というように、学年ごとに授業開始時間が異なる。初等学校卒業試験（PSLE）の成績が良く¹¹、非常に人気のある学校である。（図表 6-1-2 「ノースランドプライマリースクールの概要」参照）。

¹¹ PSLE の成績は教育省のホームページで毎年公表される。

図表 6-1-2 ノースランドプライマリースクールの概要

学校名	ノースランドプライマリースクール(Northland Primary School)
住所	15 Yishun Avenue 4 Singapore 769026
学校経営のタイプ	国立校
創設年月日	1988年1月2日
教師数	90名(男性22名、女性68名) 事務員4名 その他4名
生徒数	2,269名(男子1,161名、女子1,108名)
学校時間	7時30分から12時55分 12時55分から18時20分 2部制

出所：2004年9月学校訪問聞き取り調査により作成

(2) 特色

①ビジョン

ノースランドプライマリースクールの掲げるビジョンは、進取の気概に富み、人に対して優しく、献身的な生徒を育てる世界一流の学校となることである。

②入学希望者

ノースランドプライマリースクールは、初等学校卒業試験(PSLE)の成績が良いことから、地域内にある14のプライマリースクールの中で最も人気が高い。毎年、入学希望者が多いため、同校では、学校から1キロ以内に居住する希望者を優先している。

③IT教育

IT教育に非常に力を入れており、授業ではパワーポイントやインターネットを日常的に取り入れている。例えば、英語の作文の授業では、生徒はEメールを利用して友達に招待状を出すなどの課題を与えられ、書く力を身に付けている。担当者によると、家庭でもインターネットを利用している生徒は8割にのぼるといふ。

IT教育について、初等教育段階では教育省の定めた公式のカリキュラムはなく、各学校が独自のIT指導計画を作成している。ノースランドプライマリースクールでは、卒業時に全ての生徒がワードとパワーポイントの技術を習得していることを目標としている。

③海外との交流プログラム

ノースランドプライマリースクールは、仙台市や熊本県山鹿市の小学校と交流がある。仙台市の小学校とは文化交流を行っており、熊本県山鹿市の小学校とは年に1回ホームステイを通じて交流プログラムを実施している。山鹿市の小学生は、1991年からノースランドプライマリースクールを訪問しており、授業に参加する一方、竹トンボやけん玉、折り紙などで交流を深めている。

④学校運営基金

ノースランドプライマリースクールでは、他の学校同様、教育省から児童基金(Pupil's Fund)などの学校運営に係る資金を受け取っている。しかしながら、経済的に恵まれない子どもたちがより十分な教育を受けることができるように、学校独自の資金調達プログラ

ムを実施している。毎年各種イベントを開催し、資金を調達して奨学金としたり、学校運営に役立てたりしている。2004年度は「ノースランドゴルフトーナメント」を実施し収益金を得た。



授業風景（Northland Primary School）

第2節 中等教育（Secondary School）

1 学校概要

シンミンセカンダリースクール（Xinmin Secondary School）は、課外活動（Co-Curricular Activities : CCAs）が盛んな学校で、生徒は放課後、校内の様々な場所で活動している。運動（サッカー、ラグビー、卓球、水泳等）や文化（ブラスバンド、合唱、情報技術、生物等）のクラブがあり、地区大会や全国大会に出場し、多くの賞を受賞している。（図表 6-2-1 「シンミンセカンダリースクールの概要」参照）。

図表 6-2-1 シンミンセカンダリースクールの概要

学校名	シンミンセカンダリースクール(Xinmin Secondary School)
住所	21 Fernvale Link Singapore 797702
学校経営のタイプ	国立校
創設年月日	1945 年
教師数	87 名 (男性 28 名、女性 59 名) 事務員 11 名
生徒数	1,526 名 (男子 777 名、女子 749 名)
学校時間	7 時 30 分から 15 時 30 分 1 部制

出所：2004 年 9 月学校訪問時間聞き取り調査により作成

2 特色

(1) ビジョン

シンミンセカンダリースクールは、子どもたちの将来のため、質の高い教育を提供する優れた学校であることをビジョンとして掲げている。

(2) 道徳観を高めるプログラム

月ごとにテーマを決め、生徒の道徳観を高めるプログラムを実施している。毎月のテーマは、校舎の壁に 1 月から 11 月¹²分まで掲示されている。例えば、2004 年 1 月から 11 月までの道徳観を高めるテーマは次のとおりである (図表 6-2-2 「毎月の道徳観のテーマ (2004 年)」参照)。

図表 6-2-2 毎月の道徳観のテーマ (2004 年)

1 月	美德 (Mindset for Excellence)	2 月	正直さと誠実さ (Honesty and Integrity)
3 月	責任 (Responsibility)	4 月	尊敬 (Respect)
5 月	謙遜 (Humility)	6 月	自己修養 (Self-discipline)
7 月	ボランティア精神 (Volunteerism)	8 月	学校や国家への忠誠 (Loyalty to the school and nation)
9 月	感謝の気持ち (Gratitude)	10 月	確固たること (Steadfastness)
11 月	公共心 (Civic-Mindedness)		

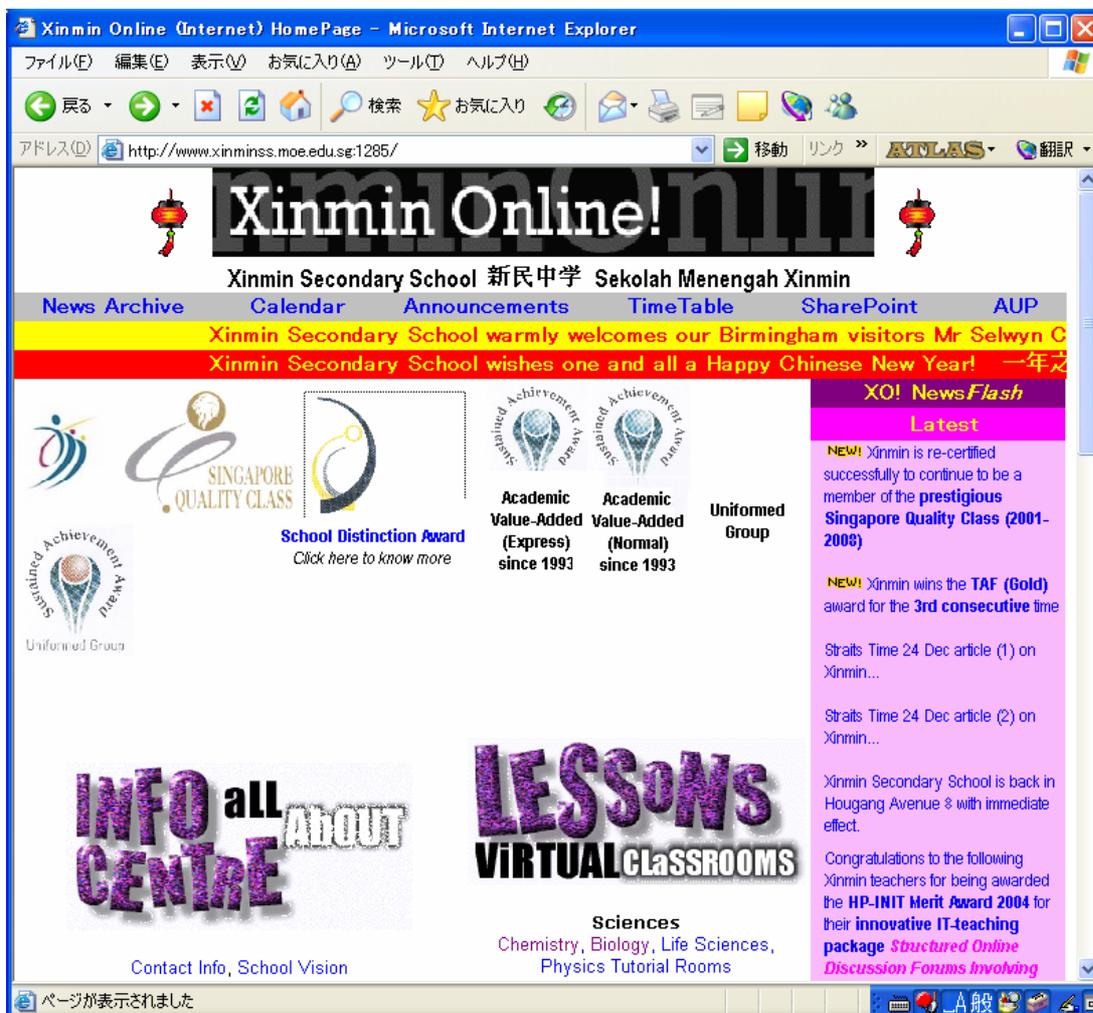
出所：2004 年 9 月学校訪問時間聞き取り調査により作成

¹² シンガポールの学校は 12 月は休みとなる。

(3) eラーニング

シンミンセカンダリースクールは、インターネット上に生徒のためのサイト (<http://www.xinminss.moe.edu.sg:1285/>) を開設している (図表 6-2-3「シンミンオンライン」参照)。

図表 6-2-3 シンミンオンライン



<http://www.xinminss.moe.edu.sg:1285/>

生徒は、このサイトを通じて学校や授業に関するさまざまな情報を得るとともに、語学、化学、生物等の教科を学習することができる。さらに、教師はこのウェブサイトを通じて生徒に課題を出すこともできる。

パソコンやインターネットを中心とした IT 技術を活用した授業はこれまでも行われていたが、2004 年からは、「eラーニングの日 (The e-learning day)」を設け、この日は 1 日自宅でインターネットを通じて学習する日としている。

(4) 生徒への質問

シンミンセカンダリースクールを訪問した際に、8 人の生徒に学校生活に関する下記のような質問をした。

①好きな教科

英語、化学、文学、地理、体育といった答えが返ってきた。

②1日に自宅で何時間勉強するか

ほとんどの生徒が1日2時間から3時間勉強すると答えた。また、試験前には3時間から4時間勉強するとのことだった。

③塾や家庭教師を活用しているか

ほとんどの生徒は塾に通い、家庭教師にもついている。塾で勉強する教科は数学とのことだった。

④将来の夢

看護師、警官、法医学者、サッカー選手などになりたいという答えが返ってきた。



開放的な雰囲気の校舎（Xinmin Secondary School）



筆者訪問時の校長先生、生徒たち（Xinmin Secondary School）

第3節 大学準備教育（Junior College）

1 学校概要

イシュンジュニアカレッジ（Yishun Junior College）は、2年制の国立学校で大学進学を目指す生徒のための学校である（図表 6-3-1「イシュンジュニアカレッジの概要」参照）。

イシュンジュニアカレッジの生徒は、必修科目の英語論文（General paper）と母国語（Mother Tongue）以外の科目を自由に選択することができる。ジュニアカレッジでは、セカンダリースクールまでの教育と異なり、科目の選択の幅が広く、生徒の自主性が尊重されている。

図表 6-3-1 イシュンジュニアカレッジの概要

学校名	イシュンジュニアカレッジ（Yishun Junior College）
住所	3 Yishun Ring Road Singapore 768675
学校経営のタイプ	国立校
創設年月日	1986年3月19日
教師数	113名 事務員23名
生徒数	1,282名（男子610名、女子672名）
学校時間	7時40分から17時00分 1部制

出所：2004年9月学校訪問聞き取り調査により作成

2 特色

(1) ビジョン

イシュンジュニアカレッジは、情熱を持った誠実な教育の実践をビジョンとして掲げている。

(2) 試験対策

GCE-A レベル試験対策のため、イシュンジュニアカレッジでは特別授業等を実施している。生徒は、月曜から金曜の午前7時30分から午前9時、土曜の午後1時から午後6時の間は特別授業を受けたり、自主学習を学校でしている。

(3) 1クラスの生徒数

1クラスの生徒数は20人程度となっている（最高25人）。しかしながら、選択授業がほとんどなので、教室でクラス全員が一緒に受ける授業は英語論文（General Paper）と週に1回の公民（Civics）の授業のみである。

(4) eラーニング

授業の中ではもちろんのこと、生徒が家庭学習でも利用できるように、全ての教師がWebサイトを開設し、授業に役立てている。また、「eラーニングの日」を年に1回（2005年から1～2回）設けて、生徒が自宅でインターネットを通じて学習する日としている。

(5) オープンハウス

イシュンジュニアカレッジでは年に2回「オープンハウスの日」を設けて学校を保護者や地域の住民に開放している。保護者は授業を参観したり、課外活動を見学することができる。



校内にあるカウンセラー室（Yishun Junior College）

第4節 専門教育 (Polytechnic)

1 学校概要

ポリテクニクはセカンダリースクールを卒業し、GCE-O レベルを合格した生徒が入学でき、社会に出てすぐに役立つ実学を中心とした教育を提供する3年制の教育機関である。シンガポールには現在5つのポリテクニクがあり、ナンヤンポリテクニク (Nanyang Polytechnic) はそのうちの1つである (図表 6-4-1「ナンヤンポリテクニクの概要」参照)。

図表 6-4-1 ナンヤンポリテクニクの概要

学校名	ナンヤンポリテクニク (Nanyang Polytechnic)
住所	180 Ang Mo Kio Avenue 8 Singapore 569830
学校経営のタイプ	国立校
創設年月日	1986年3月19日
教員・事務員数	1,164名 (男性612名、女性552名)
生徒数	13,456名 (男性5,885名、女性7,571名)
学部	工学部、情報工学部、デザイン部、 ビジネスマネジメント部、健康科学部、化学・生物科学部

出所：2004年9月訪問時の聞き取り調査により作成

2 特色

(1) ビジョン

ナンヤンポリテクニクは、確かな産業技術と国際的なつながりを持つ最高の教育機関であることをビジョンとして掲げている。

(2) 企業との連携

ナンヤンポリテクニクは企業と連携し、教員や学生のプロジェクトチームへの機材提供と引き換えに、企業の研究開発の一部を無償で請け負っている。

特に工学部では、学生は3年生の時に企業から依頼を受けたプロジェクトワークを実施することになる。プロジェクトワークの実施期間は6ヶ月間で、そのうち3ヶ月間は企業で実地研修を受けるが、優秀な学生には企業から就職のオファーが直接来ることもある。プロジェクトワークに対する企業からの注文は厳しく、学生は実社会と同様に成果を求められる。学生にとっては厳しい反面、非常に有益な体験となっている。

(3) 実務教育

ナンヤンポリテクニクでは、授業の大半が課題研究をベースにした実務的な体験型学習となっている。1年生では基礎教養科目も学習するが、語学についてはコミュニケーションスキルなどの実用的な学習のみとなっている。卒業生のうち15～20%の学生が大学へ進学しているが、ポリテクニクは大学へ進学するための学習をするところではなく、就

職に備えた職業教育を行う教育機関として位置づけられている。

(4) 就職支援

就職希望の学生のうち95%の学生は就職先が卒業後3ヶ月以内に決定する。学内にはサービスセンターが設置されており、学生の就職支援をしている。また、産業界から講師を招いてのキャリアガイダンスも実施されている。第一線で活躍している人の仕事の話や、キャリアと個人の生き方について、あるいは職場での苦労話などを聞き、学生たちは進路決定の参考にしている。

卒業生の15~20%が大学へ進学することは上述のとおりだが、その中でも上位5%の成績を修めた学生は、シンガポールの大学へ進学する。他の進学を希望する学生は国外の大学を探さなければならない。また、3~5年の職業経験を積んだ後、大学へ進学する学生もいる。

(5) 社会人教育

ナンヤンポリテクニクは、社会人のために職業訓練や資格取得のためのコースを開設している。1年間に約5,000人の社会人を受け入れている。社会人のためのコースは、市場からの要求と密接に連携しており、なかには一般企業の支援により開設されているコースもある。



作業室 (Nanyang Polytechnic)

第5節 その他の教育機関

1 学校概要（日本人学校）

シンガポールには、小学部クレメンティ校、小学部チャンギ校そして中学部の3つの日本人学校がある。これら3つの学校はシンガポール日本人会によって設置され、シンガポール政府により認可された私立学校である。シンガポール日本人会と学校運営理事会によって管理運営されている。

シンガポールにおいて、日本の教育原理と方法に基づく初等・中等教育を、日本文部科学省の定める学習指導要領に則って、日本語による教育を行うことを目的としている。その上で、シンガポールの自然や文化を学び、シンガポールの子どもたちと交流し、友好親善を深めている（図表 6-5-1 「シンガポール日本人学校の概要」参照）。

図表 6-5-1 シンガポール日本人学校の概要

学校名	小学部クレメンティ校 (The Japanese school, Singapore Primary School, Clementi Campus Head Quarter)
住 所	95 Clementi Road Singapore 129782
生徒数	295 名 (男子 147 名、女子 148 名)
学校名	小学部チャンギ校 (The Japanese school, Singapore Primary School, Changi Campus Branch Office)
住 所	11 Upper Changi Road North Singapore 507657
生徒数	1,012 名 (男子 545 名、女子 467 名)
学校名	中学部 (The Japanese school, Singapore Secondary School Branch Office)
住 所	201 West Coast Road Singapore 127383
生徒数	423 名 (男子 245 名、女子 178 名)

出所：平成 16 年度シンガポール日本人学校要覧

2 特色

(1) シンガポール日本人学校の基本方針

シンガポール日本人学校は、世界に羽ばたく立派な日本人を育成することを教育目標として掲げている。この教育目標を実現するため、3校の基本方針を次のように定めている。

①基礎基本の徹底、②英語教育の重視、③IT 教育の充実である。

(2) 英語教育の重視

シンガポール日本人学校では、立派な国際人となるための英語教育を重視し、実効性のある授業を展開している。英会話教育においては、学年に関係なく少人数の習熟度別のクラスを編成し、児童一人ひとりの力に応じた丁寧な指導を進めている。小学部クレメンティ校においては、1、2年生で週5時間、3～6年生で週4時間、英会話授業を取り入れ

ている。

さらにイマージョン教育にも取り組んでいる。イマージョン教育とは、音楽、体育の授業で英語に没頭（イマージョン）することを通して、自然な語学力の育成を図るものである。

(3) IT 教育の充実

①情報活用の実践力、②情報の科学的な理解、③情報社会に参画する態度の育成を目指し、各教科、領域等においてコンピュータ学習を積極的に取り入れている。小学部チャング校では、校内に130台のパソコンを配備し、計画的にIT教育の充実を図っている。しかしながら、担当者によると、シンガポールの国立校のIT教育の進展にはまだ追いついていないとのことである。



教室内の掲示板 英語学習

(The Japanese School Primary School Changi Campus)

おわりに

本文でみたように、シンガポールの子どもを取り巻く教育環境は厳しく、早くも初等教育4年生終了時に成績によりクラスを振り分けられてしまう。その後、初等学校卒業試験（PSLE）を受け、各々の能力に応じた中等学校（コース）へ進学する。制度上は途中でコースを変更することは可能だが、低いレベルから高いレベルへのコース変更は事実上困難である。子どもたちが幼い頃から感じるプレッシャーの大きさは想像するに難くない。

今回、初等・中等学校の校長先生をはじめ何人かの先生にシンガポールの教育制度の問題点について質問する機会を得たが、どの先生からも非常にうまく機能しているという答えが返ってきた。能力に応じた教育機会を提供することで、勉強についていけないことから学校へ行かないという子どもはなく、日本で社会問題となっているような不登校児の問題はみられないという。調査を実施する前は、徹底的な能力主義からくる弊害ばかりに目を向けがちであったが、認識が改まる機会となった。

本レポートでは、現在のシンガポールの教育システムとその特色を紹介したが、今後、子どもたちの内面の問題についても深く掘り下げる必要がある。

シンガポール政府は、これからも世界トップの子どもの学力を維持することに全力を注ぐだろう。一方、能力別のクラス分け方法を一部変更するなど子どものストレスを軽減させることにも取組み始めており、シンガポールの教育政策に今後も注視していきたい。

参考資料

<参考文献>

- ・ 斎藤里美『シンガポールの教育と教科書』 明石書店 (2002年)
- ・ 『シンガポールの政策』 財団法人自治体国際化協会 (2001年)
- ・ *EDUCATION STATISTICS DIGEST 2003*
Ministry of Education Singapore (2004年)
- ・ *Education in Singapore*
Ministry of Education Singapore (2004年)
- ・ *The Education Landscape In 2004 and Beyond*
Ministry of Education Singapore (2004年)
- ・ *YEARBOOK OF STATISTICS SINGAPORE 2004*
Department of Statistics Singapore (2004年)
- ・ *Census of Population 2000*
Department of Statistics Singapore (2001年)
- ・ *SINGAPORE GOVERNMENT DIRECTORY 2004*
Ministry of Information, Communications and the Arts (2004年)
- ・ *THE BUDGET FOR THE FINANCIAL YEAR 2004/2005*
Ministry of Finance Singapore (2004年)

<参考 Website>

- ・ シンガポール政府 <http://www.gov.sg/>
- ・ シンガポール政府 教育省 <http://www.moe.gov.sg/>
- ・ シンガポール試験評価委員会 (SEAB) <http://www.seab.gov.sg/>
- ・ シンガポール政府 教育省 About Us
<http://www.moe.gov.sg/corporate/aboutus.htm>
- ・ シンガポール政府 教育省 Education System
http://www.moe.gov.sg/corporate/education_system.htm
- ・ シンガポール政府 教育省 Our Curricuram
http://www.moe.gov.sg/corporate/our_cur.htm
- ・ シンガポール政府 教育省 School Directory
<http://www.moe.gov.sg/schdiv/sis/>
- ・ シンガポール政府 教育省 Compulsory Education
<http://www1.moe.edu.sg/ce/>
- ・ ダマイプライマリースクール
<http://www.damaipri.moe.edu.sg/damaieduone/index.asp>
- ・ ノースランドプライマリースクール
<http://schools.moe.edu.sg/northland/>

- ・シンミンセカンダリースクール
<http://www.xinminsec.moe.edu.sg/default.aspx>
- ・イシュンジュニアカレッジ
<http://www.yishunjc.moe.edu.sg/>
- ・ナンヤンポリテクニク
<http://www.nyp.edu.sg/>
- ・シンガポール日本人学校
<http://www.sjs.edu.sg/top.asp>
- ・シンガポールのスポーツスクール
<http://www.sportsschool.edu.sg/legal/sss/aboutUs.htm>
- ・シンガポール国立大学
<http://www.nus.edu.sg/>
- ・ナンヤン工科大学
<http://www.ntu.edu.sg/publicportal/>
- ・シンガポール経営管理大学
<http://www.smu.edu.sg/>

執筆者

(財)自治体国際化協会シンガポール事務所 所長補佐 山梨 和美